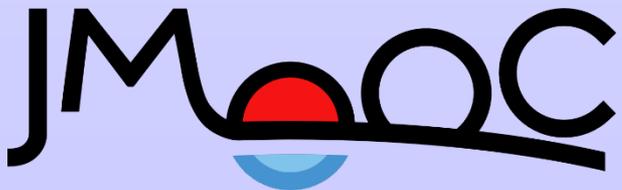


オンライン授業に関する  
JMOC ワークショップ  
第7回

『アクティブラーニングを  
オンライン授業で！』

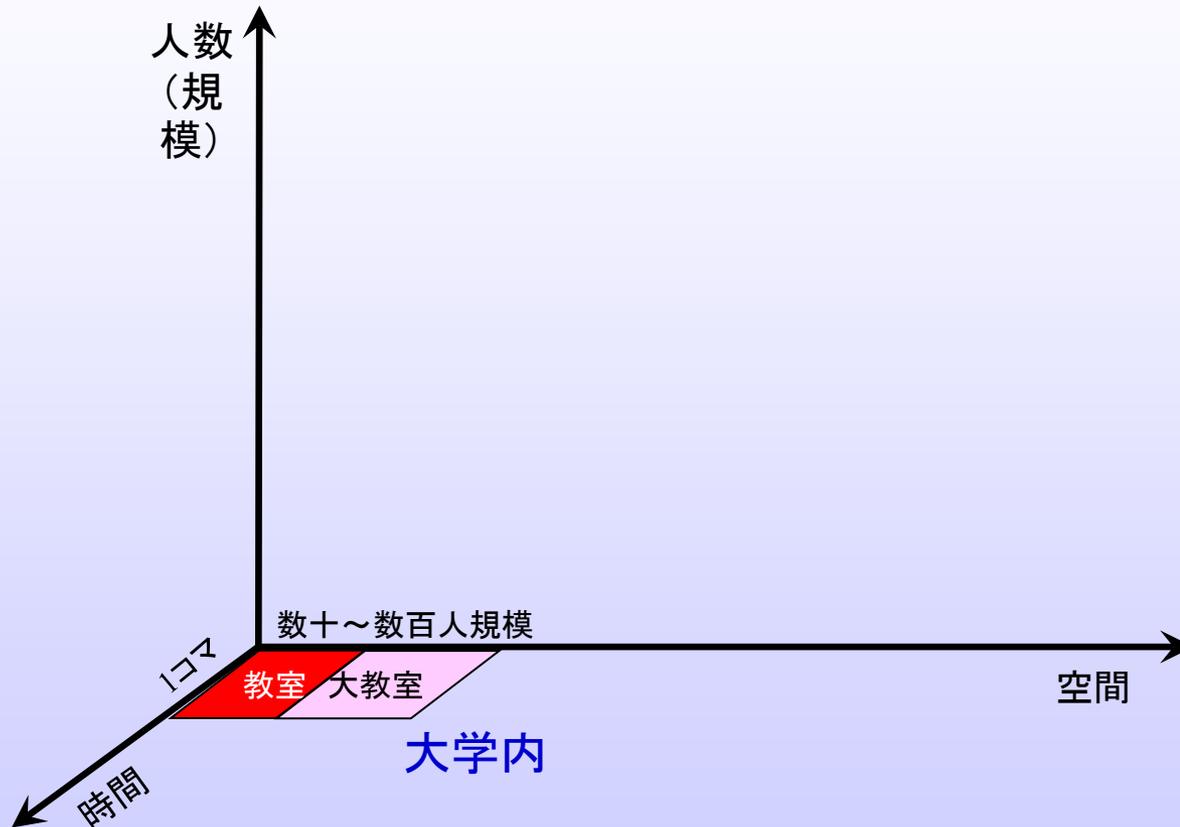
主催：日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOC）



2020年7月4日

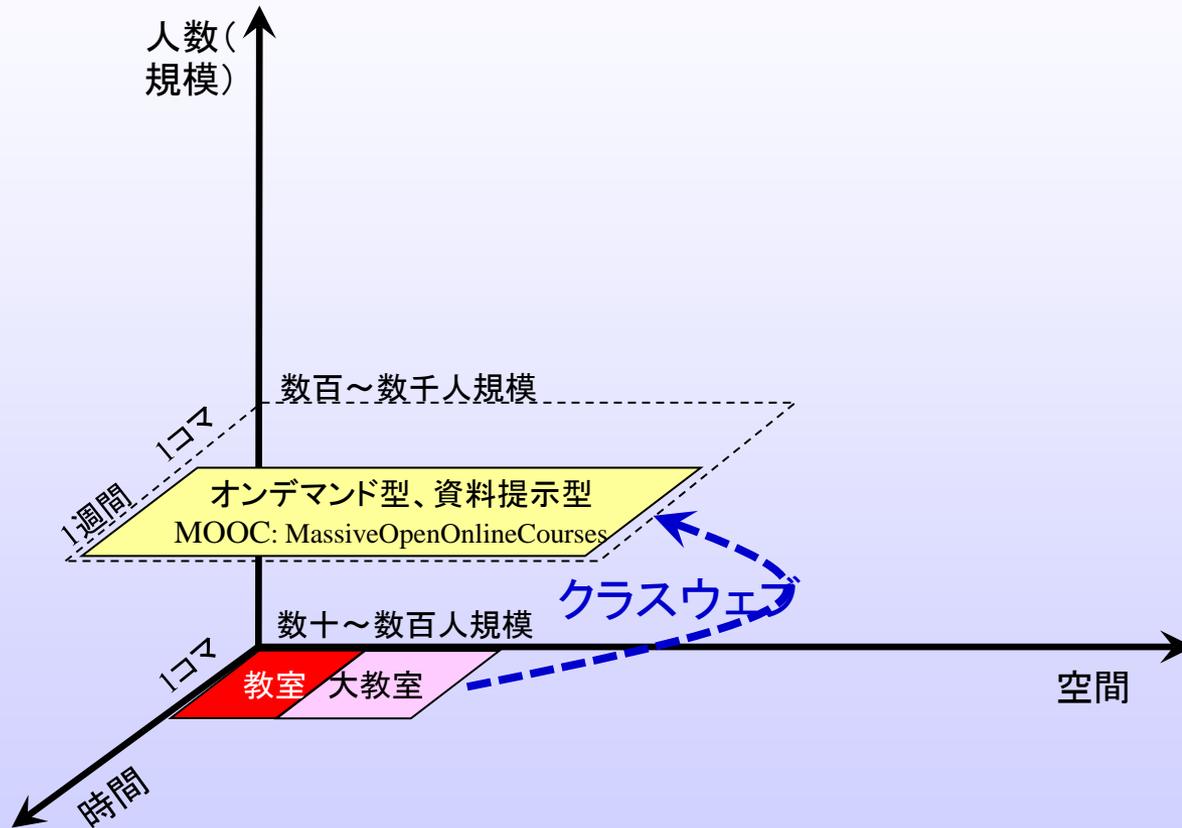
# 教育のデジタル・ トランスフォーメーション？

# 従来型の面接授業(対面授業)

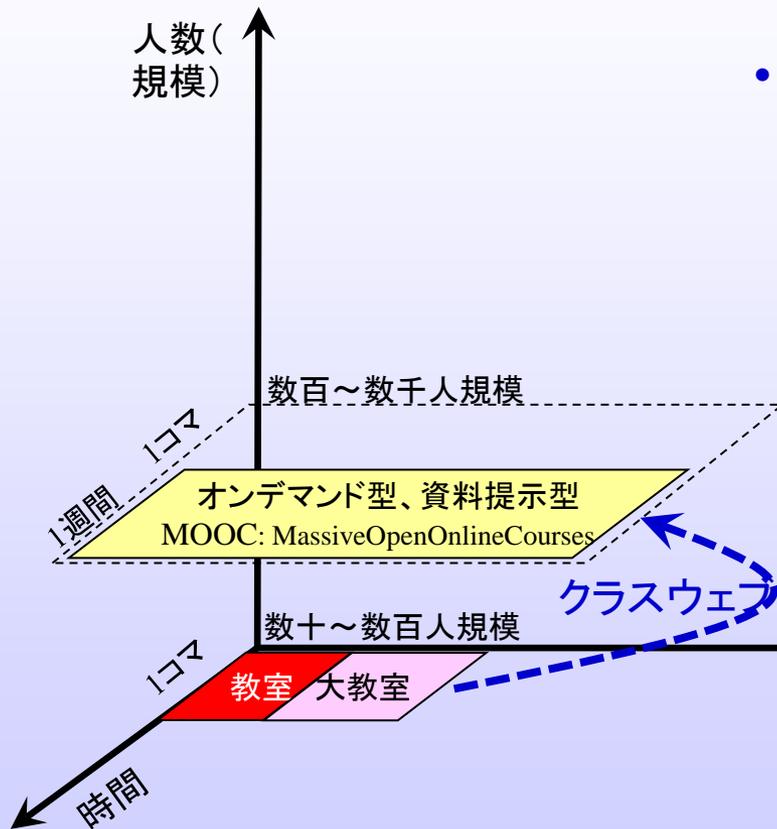




# コロナ感染症対策としてのオンライン授業(1)



# コロナ感染症対策としてのオンライン授業(1)



## • 持続可能性 (Sustainability)の危機

### - 教員の負担が多い

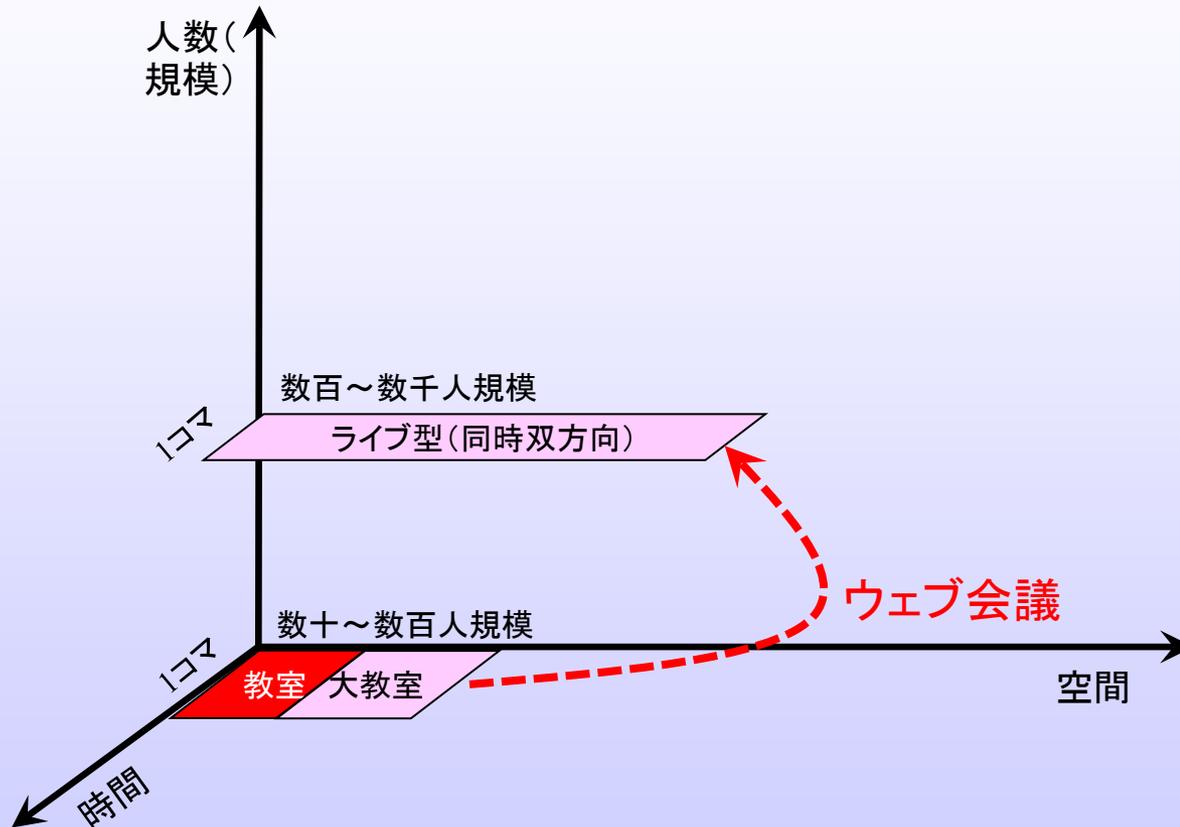
- 長年の面接授業で培った授業方法論が使えない
- 慣れないデジタル・テクノロジーを無理やり使う
- 講義内容だけではなく、毎回の提出課題を作る

### - 学生の不満が多い

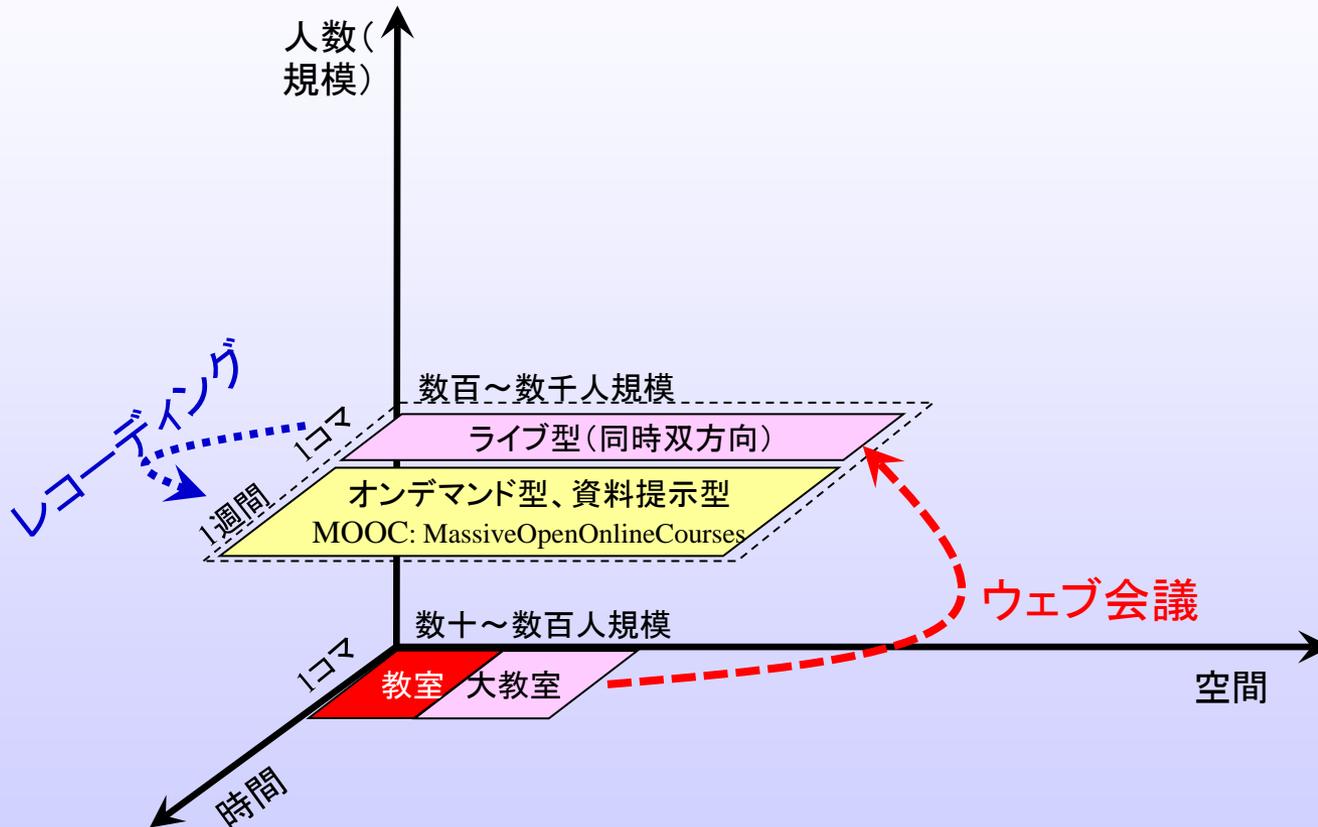
- とともに学ぶ同僚が近くにいないなかで、孤独に一人で勉強しなくてはならない
- すべての授業が一気にオンラインになったため、毎回の課題提出が膨れ上がって、負担が多い

→ 単位の实质化(理工系では当たり前ですが)

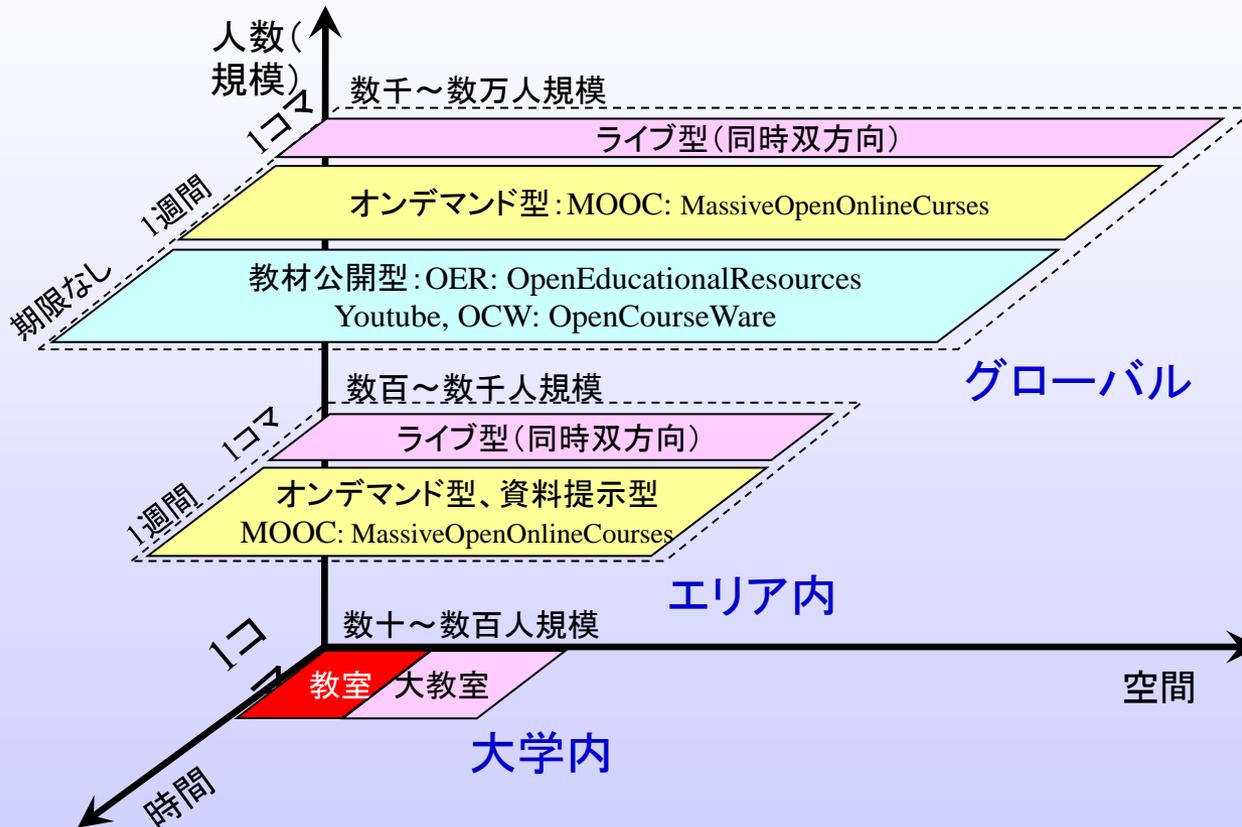
# コロナ感染対策としてのオンライン授業(2)



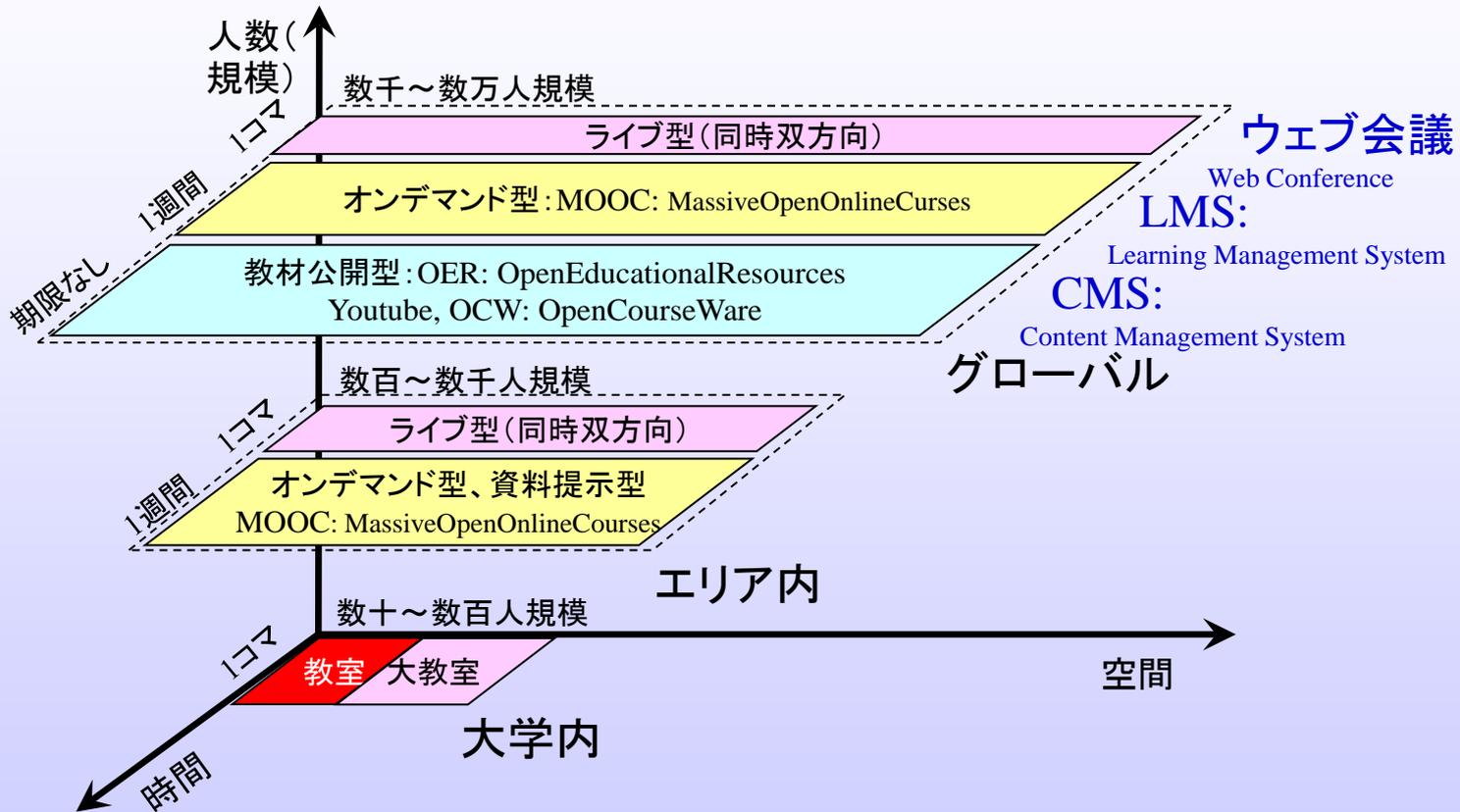
# コロナ感染対策としてのオンライン授業(2)



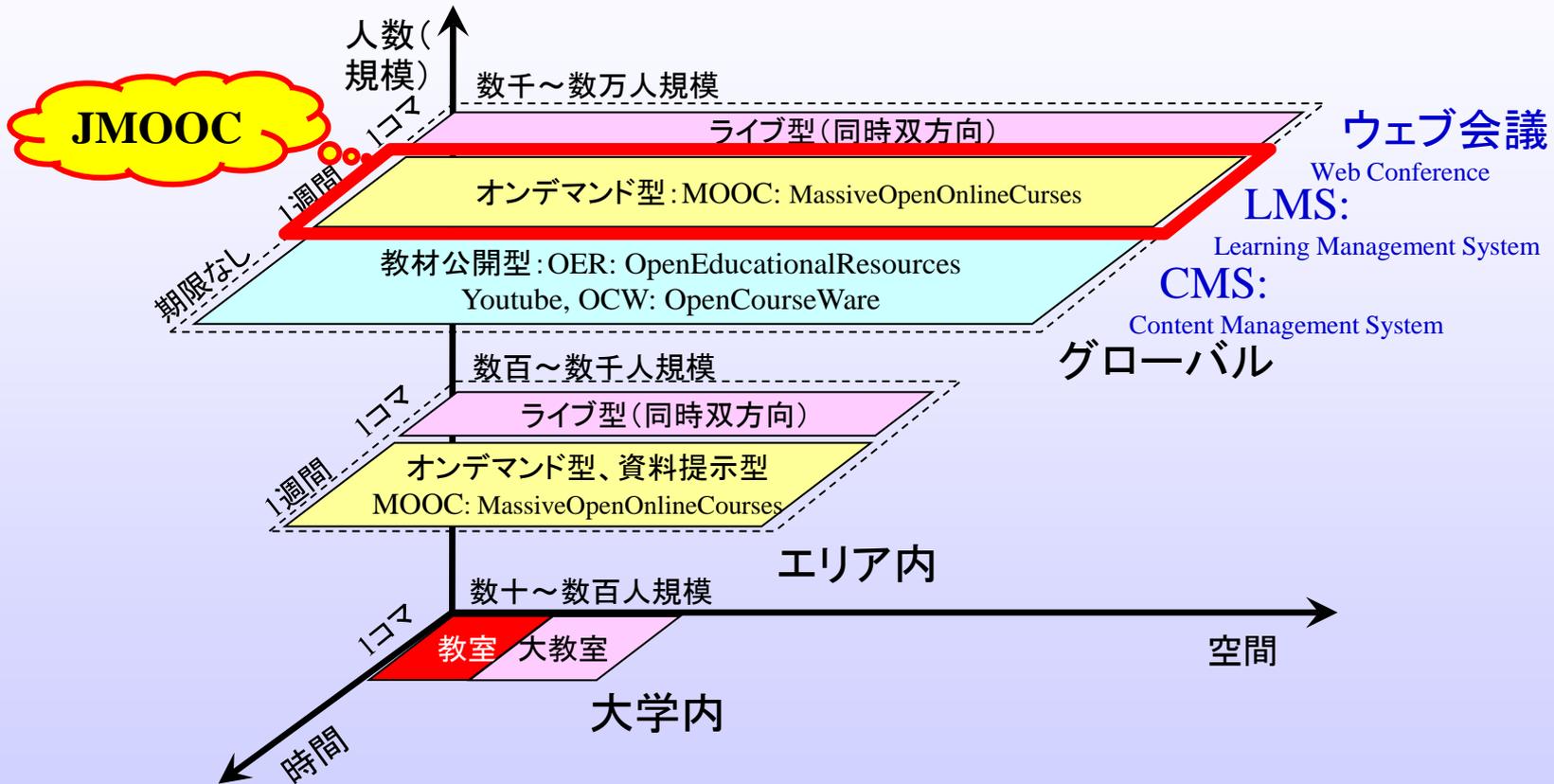
# 拡張する教育の時空間



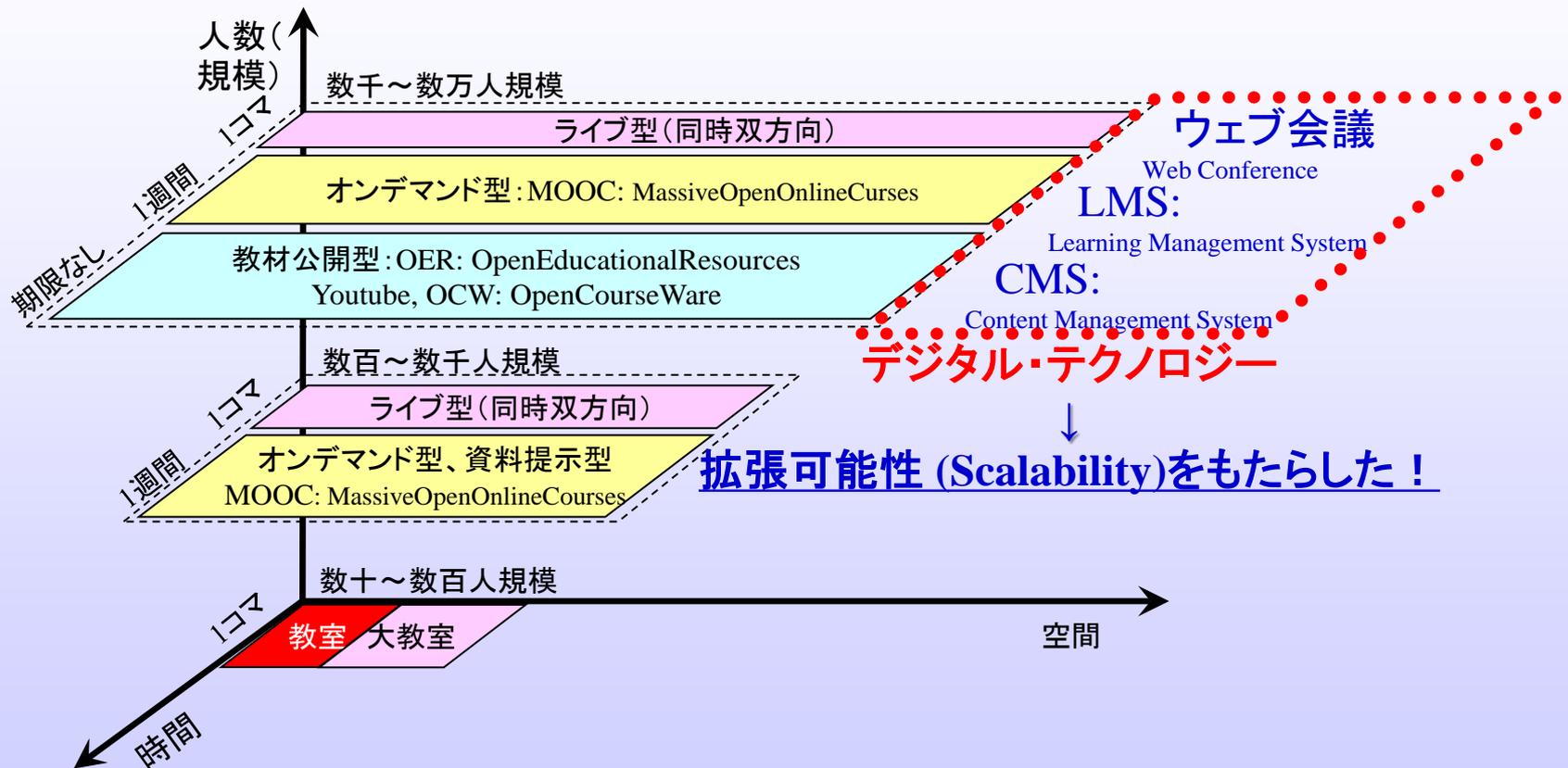
# 拡張する教育の時空間



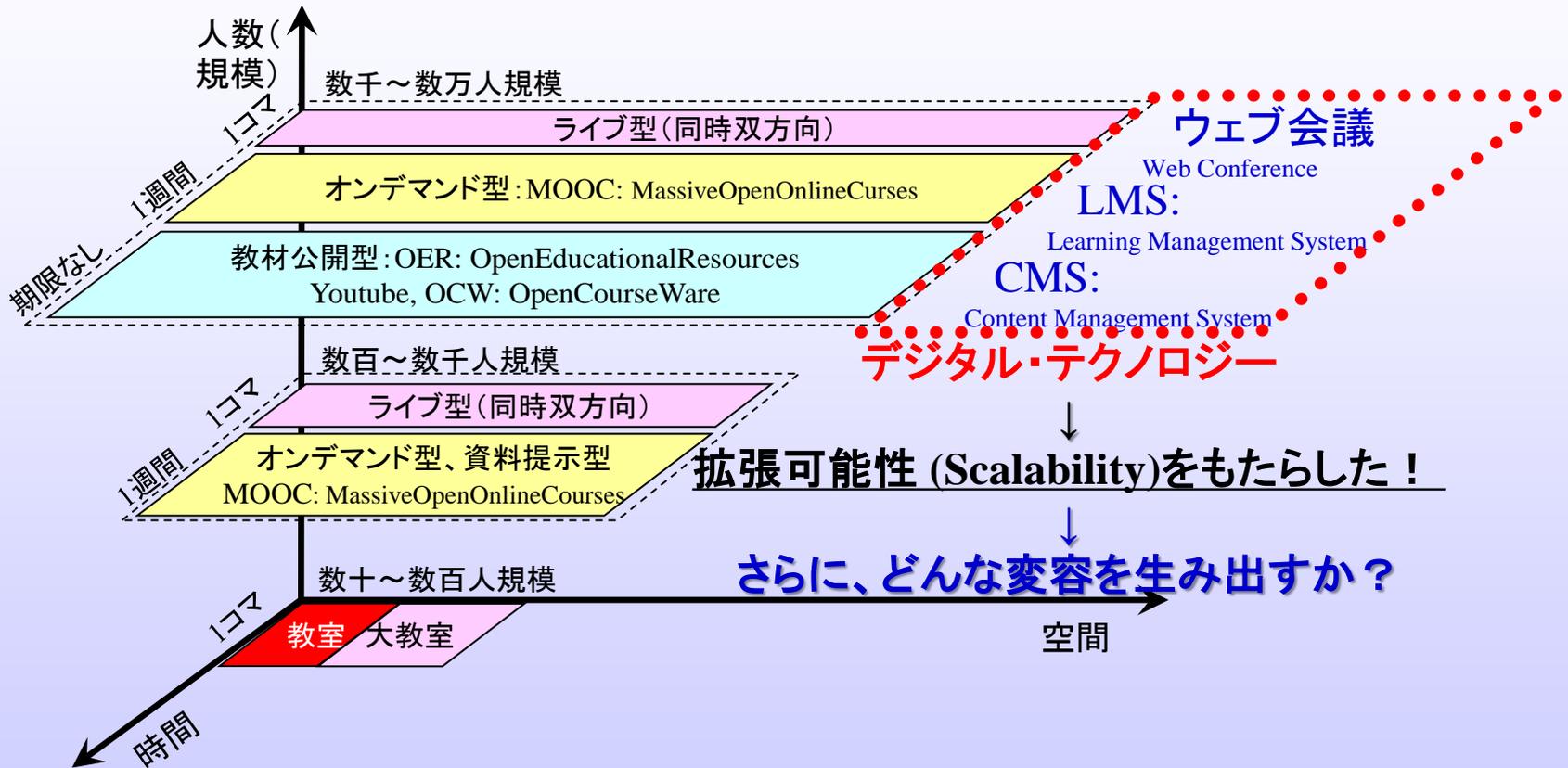
# 拡張する教育の時空間



# 教育のデジタル・トランスフォーメーション



# 教育のデジタル・トランスフォーメーション



# デジタル・テクノロジーがもたらす変容とは？

- 未来のことはいくら分析しても分からない  
∵分析は、過去からの延長で決まる未来しか見通せない
- →不安定で不確実な未来に備えるには、  
「**すでに起こった未来**」を観察する！
  1. どのゆらぎが成長するかを試すか観察し、
  2. 何かを変えている兆しを見つけ、
  3. その先に見通せるものを発見すればよい
- そこで、ここでは方向づけたい未来を、  
– 「**教育効果の高いアクティブラーニング**」の実現としよう！

# デジタル・テクノロジーがもたらす変容とは？

つまり、

1. アクティブラーニング (Active Learning)
2. 教育効果 (Educational Effects)

- 制約条件:

- × 全精力をつぎ込んでやっどできる

- ☑ **拡張可能性 (Scalability)**

- 少人数で実証されている効果の高い教育を大規模に！
      - 私立大学に必須の制約条件(国公立大学でも教養系では同様)

- ☑ **持続可能性 (Sustainability)**

- セメスターぶっ通しで実践しても、教員がつぶれない！